

# 中学校英語教科書の研究 (1)

津 村 敏 雄

## 要 旨

今年度（令和3年度）から全国の中学校の英語の授業において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を規定する新学習指導要領（平成29年告示）のもとに全面改訂された教科書が使用されている。新しい中学校英語教科書は、旧学習指導要領（平成20年3月告示）のもとで昨年度（令和2年度）まで使用された中学校英語教科書と比べてどのような変化や違いがあるのだろうか。本稿では、中学校英語教科書のうち、旧版と新版を出版している5社5種類の中学校英語教科書の分析と考察を行った。分析結果から、ICT教育の推進による音声や動画の二次元コード（QRコード）の設置、「話すこと」を強化した4技能5領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」）の言語活動、小学校での英語の導入による4線ノートの幅の変更とオリジナルの手書き書体の開発、CAN-DO形式による学習到達目標の明確化、校種連携（小学校・中学校・高等学校の学びの接続）の工夫、「話すこと」の言語活動および複数の領域を統合したプロジェクト型の言語活動の強化、ユニバーサルデザイン等の特別支援教育への配慮など、資質・能力（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）を育むための教材の見直しが図られており、各出版社が創意工夫を凝らした中学校英語教科書であることが明らかになった。

## I. はじめに

2021（令和3）年4月から、中学校学習指導要領（平成29年告示）の施行とともに、全国の中学校の英語の授業において、9年ぶりに全面的に改訂されることになった新しい英語教科書が使用されている。今回の学習指導要領の改訂に至るまでの主な議論には、グローバル化が急速に進展する中で生涯に渡る英語によるコミュニケーション能力の必要性があること、（小学校の「外国語活動」の成果として積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度は向上しているものの）依然として（やり取りや即興性を意識した）「話すこと」や複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていないこと、コミュニケーションを行う目的や場面・状況等に応じて自分の考えや気持ちなどを適切に表現できていないことなどが中央教育審議会の答申に集約されている。そして、小学校の高学年（第5学年・第6学年）での教科としての外国語（英語）の導入などによる指導内容の抜本的な見直し、4技能からCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に基づいた4技能5領域への変更（「話すこと」を「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」に分割）や観点別学習状況評価の変更（「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」から「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組

む態度」へ) など、指導と評価の内容が大幅に改められている。新旧の中学校学習指導要領の外国語科の目標は以下の通りである (表 1, 表 2)。

**表 1 旧学習指導要領における外国語科の目標**

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

(出所) 文部科学省 (2010) 『中学校学習指導要領 (平成 20 年告示)』

**表 2 新学習指導要領における外国語科の目標**

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

(出所) 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』

新学習指導要領の目標が旧学習指導要領の目標と大きく異なる点は、「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を明確にして、「見方・考え方」と「資質・能力」を各教科等の目標に掲げたことにある。「見方・考え方」とは、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方のことであり、「資質・能力」とは、各教科等で身に付けた「知識・技能」(「何を理解しているか、何ができるか)を活用して、「思考力・判断力・表現力等」(理解していること・できることをどう使うか)や「学びに向かう力・人間性等」(「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)を発揮することで、問題解決を成し遂げるための力である。子供たちは、学校での学びの中で培った「資質・能力」と「見方・考え方」を働かせながら、大人になってからの社会生活においても、様々な物事を思考して、よりよい社会や自らの人生を創り出して歩むことになる。どちらも「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の方略であるが、子供たちが予測困難な時代においても一人一人が未来の創り手となり逞しく生き抜くために求められている新たな学力観と言える。

そして、新学習指導要領の「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語で他者とコミュニケーションを行うには、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという物事を捉える視点や考え方のことである。すなわち、外国語で円滑なコミュニケーション活動を行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解して相手に配慮すること、目的や場面・状況などに応じて習得した知識を相互に関連付けてより深く理解すること、情報を精査して考えを形成したり課題を見出して解決策を考えること、自分の

考えを形成したり再構築すること、などが大切であるということである。

また、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動」とは、外国語（英語）で、聞いたり、読んだりしたことを考え、それを話したり、書いたりすることであるが、ここで注目すべき重要な点は、4技能の順番が旧学習指導要領とは異なることである。旧学習指導要領の「聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと（などのコミュニケーション能力）」のように、これまでの過去の学習指導要領ではすべて一貫して、4技能の順番を言語習得順序の配列にならって「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」としていたが、新学習指導要領においては、4技能の順番を「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと（の言語活動）」として、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の順番に改められている。これは、世界規模で普及して既に国際的な基準となっているCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の配列に合わせたことによるものである。

さらに、外国語科（英語科）で育成すべき「資質・能力」を構築する三本柱の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」として、「(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。」は、「知識及び技能」の習得に、「(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。」は、「思考力、判断力、表現力等」の育成に、「(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」は、「学びに向かう力、人間性等」の涵養に、それぞれ対応している。

## II. 研究の目的と方法

本研究の目的は、令和3(2021)年度から中学校で使用されており令和6(2024)年度まで使用される新しい英語教科書（以下、令和3年度版）と、平成28(2016)年度から令和2(2020)年度まで中学校で使用されていた英語教科書（以下、平成28年度版）を対象として分析することで、編集方針、製本・仕様、構成・内容、特色などを比較することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を規定する新学習指導要領における中学校英語教科書の取り組みを考察することにある。分析対象とする令和3年度版の中学校英語教科書と平成28年度版の中学校英語教科書の選定方法について述べる。令和3年度版の中学校の英語教科書は、『New Horizon English Course』（東京書籍）、『Sunshine English Course』（開隆堂）、『New Crown English Series』（三省堂）、『One World English Course』（教育出版）、『Here We Go! English Course』（光村図書）、『Blue Sky English Course』（新興出版社啓林館）の6社6種類であったのに対して、平成28年度版の中学校の英語教科書は、『New Horizon English Course』（東京書籍）、『Sunshine English Course』（開隆堂）、『New Crown English Series』（三省堂）、『One World English Course』（教育出版）、『Columbus 21 English Course』（光村図書）、『Total English』（学校図書）の6社6種類となっている。令和3年度版の中学校英語教科書と平成28

年度版の中学校英語教科書でともに6社6種類と数値には変わらないが、平成28年度版の中学校英語教科書まで長年に渡って出版されてきた『Total English』(学校図書)が絶版となり、代わりに『Blue Sky English Course』(新興出版社啓林館)が新たに出版されることになった点が最大の違いである。この他、光村図書の教科書名が平成28年度版までは『Columbus 21 English Course』であったが令和3年度版では『Here We Go! English Course』と名称変更されている。そこで、本研究においては、令和3年度版の中学校英語教科書と平成28年度版の中学校英語教科書の両方が発行されている出版社の中学校英語教科書である、『New Horizon English Course』(東京書籍)、『Sunshine English Course』(開隆堂)、『New Crown English Series』(三省堂)、『One World English Course』(教育出版)、『Here We Go! English Course (旧 Columbus 21 English Course)』(光村図書)の5社5種類(新旧の中学校英語教科書3学年合計30冊)を分析対象として考察を行う。

### Ⅲ. 分 析

#### 1. 『New Horizon English Course』(東京書籍)

令和3年度版の編集方針は「豊かな学びが未来を拓く」として、平成28年度版の「グローバル化に対応し、世界に発信できる日本人の育成」を内容的には継承しつつも、新学習指導要領に対応して、「学びの意欲の喚起(自立した学習者を育てる)」「学びの質の向上(深い学びへといざなう)」「学びの連続性の重視(小中校の学びを繋げる)」を基本方針としている。そして、生徒の興味・関心を引き出す多様な題材を取り上げ、英語学習への意欲を高めて基礎学力を積み上げながら、4技能を総合的に育成することで世界に発信するための表現力を身につけることを目指している。

製本・仕様は、平成28年度版の判型が大きめの雑誌で使用されるAB判(210mm×257mm)に対して、令和3年度版の判型は大型化して主に写真集や美術雑誌などで使用されるA4判(210mm×297mm)を採用している。平成28年度版の頁数は、中1が151頁、中2が141頁、中3が151頁、3学年合計で443頁であったのに対して、令和3年度版の頁数は、中1が167頁、中2が159頁、中3が155頁、3学年合計で481頁となり、中1は+16頁、中2は+18頁、中3は+4頁、3学年で38頁の増加となっている。

課(主教材)の構成・内容は、平成28年度版の課(『New Horizon English Course』の名称はUnit)数の、中1が10課、中2が8課、中3が7課、3学年合計で25に対して、令和3年度版の課数は、中1が12課、中2が8課、中3が7課、3学年合計で27課となり、中1は+2課、中2は±0課、中3は±0課、3学年で2課増加している。平成28年度版の課の構成は、中1が「Part 1→Part 2→Part 3」で全6頁、中2と中3は「Starting Out→Dialog→Read and Think①→Read and Think②→Activity」で全10頁に対して、令和3年度版の課の構成は、中1のUnit 5までが「扉→Part 1→Part 2→Part 3」、中1のUnit 6以降が「扉→Preview→Story 1→Story 2→Story 3」で全7頁、中2と中3は「扉→Preview→Scene 1→Scene 2→Mini Activity→Read and Think 1→Read and Think 2→Unit Activity」の全10頁である。なお、新設されたPreviewは課で学習する文法の規則性や構造を目的・場面・状況を設定した音声や映像で気づかせるように工夫したコーナーとなっている他、令和

3年度版の課末のUnit Activityは(平成28年度版の課末のActivityとは異なり)複数の技能を統合する技能統合型活動が強化されている。また、小学校での学びを生かす本格的な読みの指導という観点から、3段階読み(情報を読み取る、概要を捉える、要点を捉える)としてスキミングやスキミングなど教材に応じた読み方を提案している。

単元目標は、平成28年度版がすべての学年の課の最初の部分に言語材料と言語活動の2つのCAN-DOを掲げていたのに対して、令和3年度版は同じ部分に中1は1つのCAN-DO、中2と中3は2つのCAN-DOとなったものの、新たに裏見返し部分に「学習をふり返ろう-CAN-DOリスト-」が新設されて、学年ごとに年間のCAN-DOの一覧と学年末のCAN-DOを掲示されている。「学習をふり返ろう-CAN-DOリスト-」には、Stageごとに、中1が15(「聞くこと」が3、「読むこと」が3、「話すこと[やり取り]」が3、「話すこと[発表]」が3、「書くこと」が3)、中2が15(「聞くこと」が3、「読むこと」が3、「話すこと[やり取り]」が3、「話すこと[発表]」が3、「書くこと」が3)、中3が15(「聞くこと」が3、「読むこと」が3、「話すこと[やり取り]」が3、「話すこと[発表]」が3、「書くこと」が3)で、3学年合計で45のCAN-DOを掲げている。また、中1には小学校のCAN-DOと中2と中3の学年末のCAN-DOを、中2には中1の学年末のCAN-DOと中2の学年末のCAN-DOを、中3には中2の学年末のCAN-DOと高校のCAN-DOを提示している。このように、他学年や他校種のCAN-DOを同時に掲げることは生徒に学びの見通しを示す画期的な試みである。

課外の小教材は、平成28年度版が、「聞くこと」に特化した活動のListening Activity、日常生活の場면을題材にした「話すこと」に特化した活動のDaily Scene、「読むこと」に特化した活動のLet's Read、技能統合型のプロジェクト活動のPresentationに対して、令和3年度版は、「聞くこと」に特化した活動のLet's Listen、日常生活の場면을題材にした「話すこと[やり取り]」の言語活動のLet's Talk、「読むこと」に特化した活動のLet's Read、「読むこと」に特化した活動のLet's Write、文法整理のコーナーであるGrammar for Communication、技能統合型のプロジェクト活動のStage Activityとなっている。さらに、話すこと[やり取り]の言語活動に即興性を加えたSmall Talk、教科横断的な他教科と関わる内容言語統合型学習(CLIL)のLearning "... in Englishが新設されている。

その他として、平成28年度版と同様に令和3年度版にも、小学校と中学校の学びを円滑に接続するための中1の冒頭部分の教材(平成28年度版がHi, English!で、令和3年度版はUnit 0)があるが、令和3年度版の方が平成28年度版よりも頁数が増えて内容もさらに充実している。平成28年度版にはない令和3年度版の特色は、英語ノートの4線の幅を1:1:1から2:3:2に(第2線と第3線の幅を広げて)変更されていること、書体(フォント)がBall & Stick体からオリジナルの手書き書体に変更されていること、音声や映像の二次元コード(QRコード)が付されていることである。

## 2. 『New Crown English Series』(三省堂)

令和3年度版の編集方針は「子どもたちの生きる世界に必要な力の育成」として、平成28年度版の「グローバル・スタンダードを見据えた英語教育」を継承しつつも、新学習指導要領に対応して、「ことばを使う力を育てる」「他(人や文化)とかかわる力を育てる」「考える力を育てる」「学びに向かう

力を育てる」を基本方針としている。そして、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、思考力・判断力・表現力を育成すること、5領域のバランスに配慮し、対話的な学びや深い学びを引き出す言語活動を大切にしている。また、伝統的に題材の精選を重んじる出版社であることから、生徒の知的探求に応える題材のみならず、人間教育に資する深みのある題材の他、教科横断的な学びとなる内容言語統合型学習（CLIL）を展開できる新たな題材も積極的に取り入れている。

製本・仕様は、平成28年度版の判型と同様に、令和3年度版の判型も大きな雑誌で使用されるAB判（210mm×257mm）を採用している。平成28年度版の頁数は、中1も中2も中3もすべて159頁、3学年合計で477頁であったのに対して、令和3年度版の頁数は、中1が183頁、中2が175頁、中3が183頁、3学年合計で541頁となり、中1は+24頁、中2は+16頁、中3は+24頁、3学年で64頁の増加となっている。

課（主教材）の構成・内容は、平成28年度版の課（『New Crown English Series』の名称はLesson）数の、中1が9課、中2が8課、中3が7課、3学年合計で24課に対して、令和3年度版の課数は、中1が6課、中2が7課、中3が7課、3学年合計で20課となり、中1は-3課、中2は-1課、中3は±0課、3学年で4課減少している。平成28年度版の課の構成が、中1はLesson6までが「GET①→GET②→USE①→USE②→文法のまとめ」で全7頁、中1のLesson7以降と中2と中3は「扉→GET①→GET②→USE①→USE②→文法のまとめ」で全10頁に対して、令和3年度版の課の構成は、中1はLesson3までが「扉→Part1①→Part1②→(Part1③)→Part2①→Part2②→(Part2③)→Part3①→Part3②→(Part3③)→Take Action!→(GET Plus→Word Bank)→文法のまとめ」で全12~22頁、中1のLesson4以降と中2と中3が「扉→GET①→GET②→USE①→USE②→Take Action!→(GET Plus→Word Bank)→文法のまとめ」で全12~14頁となっている。新設のGET Plusは、4技能による習得の活動であるGETとその活用の活動であるUSEを通して学習した表現に場面を設定して自動化を図る活動である。

単元目標は、平成28年度版では各課の扉の部分に、題材、言語材料、言語活動のそれぞれの3つのCAN-DOを掲げていたが、令和3年度版では各課の扉の部分に言語材料と言語活動の2つのCAN-DOを示す形式へと変更されている。なお、CAN-DO形式による学習到達目標のリスト（CAN-DOリスト）は、平成28年度版と同様に令和3年度版も裏見返し部分に「What Can I Do?」という名称で学年ごとにCAN-DOの一覧を提示している。平成28年度版では4技能について、中1が9（「話すこと」が3、「聞くこと」が2、「読むこと」が2、「書くこと」が2）、中2が9（「話すこと」が3、「聞くこと」が2、「読むこと」が2、「書くこと」が2）、中3が10（「話すこと」が3、「聞くこと」が2、「読むこと」が2、「書くこと」が3）、3学年合計で28のCAN-DOがあった。これに対して、令和3年度版では4技能5領域となり、中1が13（「聞くこと」が3、「読むこと」が4、「話すこと[やり取り]」が2、「話すこと[発表]」が2、「書くこと」が2）、中2が13（「聞くこと」が3、「読むこと」が4、「話すこと[やり取り]」が2、「話すこと[発表]」が2、「書くこと」が2）、中3が13（「聞くこと」が3、「読むこと」が4、「話すこと[やり取り]」が2、「話すこと[発表]」が2、「書くこと」が2）で、3学年合計で39のCAN-DOとなり大幅に増加している。

課外の小教材は、平成28年度版が、音声と語彙の言語活動の Words & Sounds、「聞くこと」に Let's Listen、日常生活の場면을題材にした「話すこと」に特化した活動の Let's Talk、「読むこと」に特化した活動の Let's Read、技能統合型のプロジェクト活動の Project に対して、令和3年度版には、「聞くこと」に特化した活動の Take Action! (Listen)、日常生活の場면을題材にした「話すこと[やり取り]」の言語活動の Take Action! (Talk)、技能統合型のプロジェクト活動の Project となっている他、「読むこと」に特化した活動が Reading for Information と Reading for Fun に再編されている。

その他として、平成28年度版と同様に令和3年度版にも、小学校と中学校の学びを円滑に接続するための中1の冒頭部分の教材(平成28年度版は Get Ready で令和3年度版は Starter)があるが、令和3年度版の方が平成28年度版よりも頁数が増えて内容もさらに充実している。平成28年度版にはない令和3年度版の特色は、音声や映像の二次元コード(QRコード)が付されていることである。なお、英語ノートの4線の幅は平成28年度版も令和3年度版も3:4:3で変更はなく、書体(フォント)は平成28年度版から既にオリジナルの手書き書体を採用しており変更はない。

### 3. 『Sunshine English Course』(開隆堂)

令和3年度版の編集方針は「自ら考え、行動し、目標に向かって主体的に学習が進められる教科書」として、平成28年度版の「自律的学習者を育てる教科書」を継承しつつ、新学習指導要領に対応して、「習得した知識・技能を活用して、自ら思考・判断・表現することで、学びに向かう力と豊かな人間性を育てる」を趣意とし、「生きたコミュニケーション能力の習得と自己肯定感を育む」「確かな学力を身につける」「『地球市民』としての豊かな感性を育む」を基本方針としている。

製本・仕様について、平成28年度版の判型と同様に、令和3年度版の判型も大きな雑誌で使用されている AB判(210mm×257mm)を採用している。平成28年度版の頁数は、中1と中2が151頁、中3が143頁、3学年合計で445頁であったのに対して、令和3年度版の頁数は、中1と中2が159頁、中3が151頁、3学年合計で469頁となり、中1は+7頁、中2は+7頁、中3は+8頁、3学年で24頁の増加となっている。

課(主教材)の構成・内容は、平成28年度版の課(『Sunshine English Course』の名称は Program)数が、中1が11課、中2が12課、中3が9課、3学年合計で32課に対して、令和3年度版の課数は、中1が10課、中2が8課、中3が7課、3学年合計で25課となり、中1は-1課、中2は-4課、中3は-2課、3学年で7課減少している。平成28年度版の課の構成が、すべての学年で「Basic Dialog ①・本文①→Basic Dialog ②・本文②→Basic Dialog ③・本文③」で全6頁に対して、令和3年度版の課の構成は、中1が「扉→Scenes→Think(→Retell)→Interact」で全6~7頁、中2と中3は「扉→Scenes→Think→Retell→Interact」で全8頁である。

単元目標は、平成28年度版がすべての学年の Basic Dialog ①~③の部分に1つのCAN-DOを掲げるとともに、巻末の付録に「英語で『できるようになったこと』リスト」が設置されており3学年全体のCAN-DOの一覧を掲示しているのに対して、令和3年度版は、扉の部分には3つのCAN-DOを掲げている他、巻末の付録の部分にも同じく3学年全体の「英語で『できるようになったこと』リス

ト」を設置している。「英語で『できるようになったこと』リスト」は、平成28年度版では4技能について、中1が29（「聞くこと」が5、「話すこと」が9、「読むこと」が9、「書くこと」が6）、中2が29（「聞くこと」が6、「話すこと」が7、「読むこと」が8、「書くこと」が7）、中3が29（「聞くこと」が6、「話すこと」が8、「読むこと」が9、「書くこと」が6）で、3学年合計で41のCAN-DOリストが掲げられていた。これに対して、令和3年度版では4技能5領域となり、3学年を統合した形式となり、「聞くこと」が13、「読むこと」が16、「話すこと[やり取り]」が9、「話すこと[発表]」が8、「書くこと」が13）で、3学年合計で59のCAN-DOとなり増加している。

課外の小教材は、平成28年度版には、「聞くこと」に特化した活動のPower-Up: Listening, 日常生活の場面を題材にした「話すこと」に特化した活動のPower-Up: Speaking, 「読むこと」に特化した活動のReadingとPower-Up: Reading, 「書くこと」に特化した活動のPower-Up: Writing, 技能統合型の言語活動のPower-Up: Listening & SpeakingとPower-Up: Listening & WritingとPower-Up: Writing & Speaking, 文法整理のコーナーである英語のしくみ, 技能統合型のプロジェクト活動のMy Projectがあったのに対して、令和3年度版には、「聞くこと」に特化した活動のPower-Up: Listening, 日常生活の場面を題材にした「話すこと[やり取り]」の言語活動のListening & Speaking, 「読むこと」に特化した活動のReading, 「書くこと」に特化した活動のPower-Up: Reading & Writing, 技能統合型のプロジェクト活動のOur Projectとなっている他、語彙と「話すこと[やり取り]」の言語活動のWord Web, 技能統合型の言語活動のStepsが新設されている。

その他として、平成28年度版と同様に令和3年度版にも、小学校と中学校の学びを円滑に接続するための中1の冒頭部分の教材（平成28年度版はLet's Startで令和3年度版はGet ReadyとProgram 0）があるが、令和3年度版の方が平成28年度版よりも頁数が増えて内容もさらに充実している。平成28年度版にはない令和3年度版の特色は、書体（フォント）がBall & Stick体からオリジナルの手書き書体に変更されていること、音声や映像の二次元コード（QRコード）が付されていることである。なお、英語ノートの4線の幅は平成28年度版も令和3年度版も4:5:4で変更はない。

#### 4. 『Here We Go! English Course』/『Columbus 21 English Course』（光村図書）

令和3年度版（『Here We Go! English Course』）の編集方針は「グローバル社会に必要な英語の力・心・意欲を育てる」として、平成28年度版（『Columbus 21 English Course』）の「英語の力も心も育ち、世界を舞台に生きる力が身につく教科書」を継承しつつ、新学習指導要領に対応して、「言葉・文化・価値観の異なる多様な人々と気持ちや考えを伝え合い、主体的に課題に向き合い、協力して平和な世界を築こうとする開かれた心をもつ人を育てる」を趣意とし、「英語を使う『力』が育つ」「英語を使う『心』が育つ」「学びに向かう『意欲』が育つ」を基本方針としている。

製本・仕様は、平成28年度版の判型と同様に、令和3年度版の判型も大きな雑誌などで使用されているAB判（210mm×257mm）を採用している。平成28年度版の頁数は、中1が167頁、中2が159頁、中3が151頁、3学年合計で477頁であったのに対して、令和3年度版の頁数は、中1から中3まですべて157頁、3学年合計で471頁となり、中1は-10頁、中2は-2頁、中3は+6頁、3学年で



6 頁の減少となっている。

課（主教材）の構成・内容は、平成28年度版の課（『Columbus 21 English Course』の名称はUnit）数の、中1が11課、中2が9課、中3が7課、3学年合計で27課に対して、令和3年度版の課（『Here We Go! English Course』の名称もUnit）数は、中1が8課、中2が8課、中3が8課、3学年合計で24課となり、中1は-3課、中2は-1課、中3は+1課、3学年で3課減少している。平成28年度版の課の構成は、すべての学年で「扉→Part 1→Part 2→Part 3→You Can Do It!」で全6頁に対して、令和3年度版の課の構成は、すべての学年で「扉→Part 1→Part 2→Part 3→Goal」で全9頁である。

単元目標は、平成28年度版では扉の部分に2～4のCAN-DOがあったのに対して、令和3年度版では、扉の部分での提示を改めて巻末付録の部分に「CAN-DO List」として学年ごとに年間のCAN-DOの一覧を設置している。令和3年度版では4技能5領域となり、中1が12（「聞くこと」が3、「読むこと」が3、「話すこと [やり取り]」が2、「話すこと [発表]」が2、「書くこと」が3）、中2が10（「聞くこと」が2、「読むこと」が2、「話すこと [やり取り]」が2、「話すこと [発表]」が2、「書くこと」が3）、中3が15（「聞くこと」が3、「読むこと」が3、「話すこと [やり取り]」が3、「話すこと [発表]」が3、「書くこと」が3）で、3学年合計で37のCAN-DOが掲げられている。

課外の小教材は、平成28年度版の、日常生活の場面を題材にした「話すこと」の言語活動のSkit Time、音声（強勢・リズムとイントネーション）の言語活動のSound Focus、語彙や文法のWord Network / Language Focus、「読むこと」に特化した言語活動のLet's Read、内容言語統合型学習のCLIL、技能統合型のプロジェクト活動のGo for It!に対して、令和3年度版は、日常生活の場面を題材にした言語活動のDaily Scene、「読むこと」に特化した活動のLet's Read、技能統合型のプロジェクト活動のYou Can Do It!の他、世界の情報を聞いたり読んだりして視野を広げるWorld Tour、文法知識を使用場面で整理するActive Grammarが新設されている。なお、World Tourは世界中の人々や文化などの情報に触れて生徒同士や先生と生徒が対話をしながら議論できる教科横断的な教材で、平成28年度版のCLILを改編した要素を含んでいる。

その他として、平成28年度版と同様に令和3年度版にも、小学校と中学校の学びを円滑に接続するための中1の冒頭部分の教材（平成28年度版はLet's Enjoy English!で令和3年度版はLet's Be Friends!）があるが、令和3年度版の方が平成28年度版よりも頁数が増えて内容もさらに充実している。平成28年度版にはない令和3年度版の特色は、英語ノートの4線の幅を1:1:1から5:9:5に（第2線と第3線の幅を広げて）変更されていること、書体（フォント）がBall & Stick体からオリジナルの手書き書体に変更されていること、音声や映像の二次元コード（QRコード）が付されていることである。

## 5. 『One World English Course』（教育出版）

令和3年度版の編集方針は「言語や文化についての幅広い知識と教養を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度とコミュニケーション能力の基礎を養い、我が国と郷土を愛する」とも

に他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」として、平成28年度版の「言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度とコミュニケーション能力の基礎を養い、我が国を愛し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」を継承しつつ、新学習指導要領に対応して、「生徒が楽しく英語を学びながら、外国語によるコミュニケーション能力を培い、予測困難な社会の変化の中で生きて行く力を育てる」を基本方針としている。

製本・仕様は、平成28年度版の判型は週刊誌や一般雑誌などで使用されているB5判(182mm×257mm)に対して、令和3年度版の判型は大きめの雑誌などで使用されているAB判(210mm×257mm)を採用している。平成28年度版の頁数は、中1から中3まですべて143頁、3学年合計で429頁であったのに対して、令和3年度版の頁数は、中1が163頁、中2と中3が167頁、3学年合計で497頁となり、中1は+20頁、中2と中3は+24頁、3学年で68頁の増加となっている。

課(主教材)の構成・内容は、平成28年度版の課(『One World English Course』の名称はLesson)数の、中1が9課、中2が8課、中3が6課、3学年合計で23課に対して、令和3年度版の課数は、中1が9課、中2が9課、中3が7課、3学年合計で25課となり、中1が±0課、中2が-1課、中3も-1課、3学年で2課減少している。平成28年度版の課の構成は、すべての学年で「HOP (Part 1) → HOP (Part 2) → STEP (Part 3) → STEP (Part 4) → JUMP (Task)」と展開して全9頁に対して、令和3年度版の課の構成は、すべての学年で「扉 → Part 1 → Part 2 → Part 3 → Review → Task → Grammar」で全9頁である。

単元目標は、平成28年度版と同様に令和3年度版も巻末の付録の部分に各学年のすべてのPartに1つCAN-DOが置かれている他、巻末の付録の部分に3学年全体のCAN-DOの一覧として「CAN-DO自己チェックリスト」も設置されている。平成28年度版の「CAN-DO自己チェックリスト」には4技能について、中1が12(「聞くこと」が3、「話すこと」が3、「読むこと」が3、「書くこと」が3)、中2が12(「聞くこと」が3、「話すこと」が3、「読むこと」が3、「書くこと」が3)、中3が12(「聞くこと」が3、「話すこと」が3、「読むこと」が3、「書くこと」が3)で、3学年合計で36のCAN-DOが掲げられていた。これに対して、令和3年度版の「CAN-DO自己チェックリスト」には4技能5領域として、中1が12(「聞くこと」が2、「読むこと」が2、「話すこと [やり取り]」が3、「話すこと [発表]」が3、「書くこと」が2)、中2が12(「聞くこと」が2、「読むこと」が2、「話すこと [やり取り]」が2、「話すこと [発表]」が3、「書くこと」が3)、中3が12(「聞くこと」が2、「読むこと」が2、「話すこと [やり取り]」が2、「話すこと [発表]」が3、「書くこと」が3)、3学年合計で36のCAN-DOが掲げられ、平成28年度版と同数となっている。新学習指導要領の施行により(旧学習指導要領の4技能4領域から)4技能5領域となって「話すこと」の領域が「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」とに分かれたものの、他の3領域のCAN-DOで調整している。

課外の小教材は、平成28年度版には、日常生活の場面を題材にした言語活動のTime for a Skit、語彙の言語活動のTime for Words、「聞くこと」に特化した活動のListening Tips、「話すこと」に特化した活動のConversation Tips、「読むこと」に特化した活動のReading LessonとReading Tips、「書くこと」に特化した活動のWriting Tips、技能統合型のプロジェクト活動のProjectがあったのに対して、

令和3年度版には、日常生活の場面を題材にした言語活動の Useful Expressions, 「聞くこと」に特化した活動の Tips for Listening, 「話すこと」に特化した活動の Tips for Speaking, 「読むこと」に特化した活動の Reading と Tips for Reading, 「書くこと」に特化した活動の Tips for Writing, 技能統合型のプロジェクト活動の Project となっている。

その他として、平成28年度版と同様に令和3年度版にも、小学校と中学校の学びを円滑に接続するための中1の冒頭部分の教材（平成28年度版も令和3年度版ともに Springboard）があるが、令和3年度版の方が平成28年度版よりも頁数が増えて内容もさらに充実している。平成28年度版にはない令和3年度版の特色は、書体（フォント）が Ball & Stick 体からオリジナルの手書き書体に変更されていること、音声や映像の二次元コード（QRコード）が付されていることである。なお、英語ノートの4線の幅は平成28年度版も令和3年度版も 4:5:4 で変更はない。

#### IV. 考察とまとめ

令和3（2021）年度から使用されている新しい中学校英語教科書（令和3年度版）と、平成28（2016）年度から令和2（2020）年度まで使用されていた中学校英語教科書（平成28年度版）の分析結果を考察する。まず、編集方針については、令和3年度版は、平成28年度版の方針を継承しつつも、『New Crown English Series』（三省堂）が「ことばを使う力を育てる」「他（人や文化）とかかわる力を育てる」「考える力を育てる」「学びに向かう力を育てる」、『Sunshine English Course』（開隆堂）が「習得した知識・技能を活用して、自ら思考・判断・表現することで、学びに向かう力と豊かな人間性を育てる」、『Here We Go! English Course』（光村図書）が「英語を使う『力』が育つ」「英語を使う『心』が育つ」「学びに向かう『意欲』が育つ」のように、新学習指導要領で掲げられている資質・能力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）のもとに独自の方針を提示している。製本・仕様について、判型は、平成28年度版では、大きめの雑誌で使用される AB判（210mm × 257mm）が4社、週刊誌や一般雑誌などで使用される B5判（182mm × 257mm）が1社（『One World English Course』（教育出版）であったのに対して、令和3年度版は、写真集や美術雑誌などで使用される A4判（210mm × 297mm）が1社（『New Horizon English Course』（東京書籍））、AB判（210mm × 257mm）が4社となり、（10年ほど前まではすべての出版社が B5判（182mm × 257mm）に揃えていたこともあり）大型化の傾向が進んでいる。また、頁数は、令和3年度版は平成28年度版と比べて、微減した1社（『Here We Go! English Course』（光村図書））を除き、『New Crown English Series』（三省堂）が中1で+24頁、中2で+16頁、中3で+24頁、3学年で+64頁、『One World English Course』（教育出版）が中1で+20頁、中2と中3で+24頁、3学年で+68頁と大幅に増加している。構成・内容は、主教材である課（Unit または Lesson）の数が、微増した1社（『New Horizon English Course』（東京書籍））を除き、『New Crown English Series』（三省堂）が中1で-3課、中2で-1課、中3で±0課、3学年で-4課、『Sunshine English Course』（開隆堂）が中1で-1課、中2で-4課、中3で-2課、3学年で-7課と減少しており、各課で取り扱う内容を増やすことによる全体の課数を減らす調整が行われている。例えば、小学校での素地としての英語の学びを生かし

て中学校の学びへ円滑に繋ぐために、小・中の接続期となる中1の英語教科書の冒頭部分のみならず前半部分(中学入学から夏休みまで)の教材の頁数を増やして、小学校で学んだ表現を中学校では文法の観点から系統的に配列し直して仕組みを理解して使えるように丁寧に手厚く指導する工夫などがなされている。単元目標は、平成28年度版では、CAN-DOの一覧が置かれていたのは、『New Crown English Series』(三省堂)の「What Can I Do?」、『Sunshine English Course』(開隆堂)の「英語で『できるようになったこと』リスト」、『One World English Course』(教育出版)の3社に限られていたのに対して、令和3年度版では、『New Horizon English Course』(東京書籍)の「学習をふり返ろう-CAN-DOリスト-」と『Here We Go! English Course』(光村図書)の「CAN-DO List」が加わり、すべての出版社の教科書にCAN-DOリストの一覧が巻末や裏見返しの部分に設置されるようになり、加えて、他学年や他校種(小学校や高校1年)のCAN-DOも接続する学年に合わせて明確にして学びの見通しを示しているものもある。課外の小教材では、令和3年度版で新設されたものとして、『New Horizon English Course』(東京書籍)の他教科と関わる教科横断的な学習となる内容言語統合型学習(CLIL)のLearning“...”in English、『New Crown English Series』(三省堂)の「読むこと」に特化した活動のReading for InformationとReading for Fun、『Sunshine English Course』(開隆堂)の4技能5領域から複数の領域を合わせた言語活動を錬成して技能統合型のプロジェクト活動へ繋げるSteps、『Here We Go! English Course』(光村図書)の文法知識を使用場面で整理するActive Grammarなどがあり、各出版社が「主体的・対話的で深い学び」となるように、よく練られたユニークな教材を開発している。その他としては、英習罫における4線の罫線幅の比率は、平成28年度版では、ほぼ均等(『New Horizon English Course』(東京書籍)と『Here We Go! English Course』が1:1、『New Crown English Series』(三省堂)が3:4:3、『Sunshine English Course』(開隆堂)と『One World English Course』(教育出版)が4:5:4)であったのに対して、令和3年度版では、(3社の英習罫の罫線幅の比率に変更はないが)2社が4線の罫線幅の比率を変更して、『New Horizon English Course』(東京書籍)が2:3:2、『Here We Go! English Course』(光村図書)が5:9:5と、第2線と第3線の罫線の幅を広くした英習罫を採用している。真ん中が広い英習罫は、小学校の外国語活動で使用されてきた『Hi, Friends!』(文部科学省)の英習罫における4線の罫線幅の比率を踏襲しており、子供たちが英語のアルファベットの小文字を区別しやすくなるようにと開発されたものであるが、各出版社では昨年度(令和2年度)から発行している小学校高学年用の英語教科書の英習罫の4線の幅の比率を揃えている。また、書体(フォント)では、既にオリジナルの手書き書体を開発して平成28年度版から導入済みの1社(『New Crown English Series』(三省堂))を除いて、4社ともに平成28年度版のBall & Stick体から令和3年度版では各社で開発したオリジナルの手書き書体に変更されており、視認性や書きやすさなどのユニバーサルデザインの観点から特別支援教育への配慮も含めて、すべての子供たちにとって書きやすい書体となっている。さらに、ICT教育の推進による新たな試みとして、令和3年度版には、中学校の英語教科書で初めてとなる、二次元コード(QRコード)がすべての出版社の学年の教科書に付されている。このコードをタブレット端末などで読み取ることで、教科書の語句や本文の音声だけでなく、生徒の興味・関心を高める異文化理解を深める動画

や資料など、英語学習に関連する豊富なデジタル教材を、学校だけでなく家庭においても無料で利用できるようになっており、教育のICT化への積極的な取り組みがなされている。

## 参考文献

- Council of Europe (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment*. New York: Cambridge University Press.
- 教職員支援機構 (2018) 『主体的・対話的で深い学びを拓く』学事出版
- 国立教育政策研究所 (2016) 『資質・能力 (理論編)』東洋館出版社
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター (2020) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語』東洋館出版社
- 田村学 (2018) 『深い学び』東洋館出版社
- 中央教育審議会 (2016) 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」文部科学省
- 奈須正裕 (2017) 『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版社
- 文部科学省 (2010) 「中学校学習指導要領 (平成20年告示)」文部科学省
- 文部科学省 (2013) 「各中・高等学校の外国語教育における『リスト』の形でのCAN-DO学習到達目標設定のための手引き」文部科学省
- 文部科学省 (2016) 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」文部科学省
- 文部科学省 (2018) 「中学校学習指導要領 (平成29年告示)」文部科学省

## 分析に使用した教科書 (分析順)

- 笠島準一・関典明ほか (2016) 『New Horizon English Course 1』東京書籍
- 笠島準一・関典明ほか (2016) 『New Horizon English Course 2』東京書籍
- 笠島準一・関典明ほか (2016) 『New Horizon English Course 3』東京書籍
- 笠島準一・阿野幸一・小串雅則ほか (2021) 『New Horizon English Course 1』東京書籍
- 笠島準一・阿野幸一・小串雅則ほか (2021) 『New Horizon English Course 2』東京書籍
- 笠島準一・阿野幸一・小串雅則ほか (2021) 『New Horizon English Course 3』東京書籍
- 根岸雅史・日臺滋之・松沢伸二ほか (2016) 『New Crown English Series 1』三省堂
- 根岸雅史・日臺滋之・松沢伸二ほか (2016) 『New Crown English Series 2』三省堂
- 根岸雅史・日臺滋之・松沢伸二ほか (2016) 『New Crown English Series 3』三省堂
- 根岸雅史・日臺滋之・松沢伸二ほか (2021) 『New Crown English Series 1』三省堂
- 根岸雅史・日臺滋之・松沢伸二ほか (2021) 『New Crown English Series 2』三省堂
- 根岸雅史・日臺滋之・松沢伸二ほか (2021) 『New Crown English Series 3』三省堂
- 松畑熙一ほか (2016) 『Sunshine English Course 1』開隆堂
- 松畑熙一ほか (2016) 『Sunshine English Course 2』開隆堂
- 松畑熙一ほか (2016) 『Sunshine English Course 3』開隆堂
- 卯城祐司・中嶋洋一・西垣知佳子ほか (2021) 『Sunshine English Course 1』開隆堂
- 卯城祐司・中嶋洋一・西垣知佳子ほか (2021) 『Sunshine English Course 2』開隆堂
- 卯城祐司・中嶋洋一・西垣知佳子ほか (2021) 『Sunshine English Course 3』開隆堂
- 東後勝明ほか (2016) 『Columbus 21 English Course 1』光村図書
- 東後勝明ほか (2016) 『Columbus 21 English Course 2』光村図書
- 東後勝明ほか (2016) 『Columbus 21 English Course 3』光村図書

- 太田洋・小泉仁ほか (2021) 『Here We Go! English Course 1』 光村図書  
太田洋・小泉仁ほか (2021) 『Here We Go! English Course 2』 光村図書  
太田洋・小泉仁ほか (2021) 『Here We Go! English Course 3』 光村図書  
松本茂・本多敏幸・野田小枝子ほか (2016) 『One World English Course 1』 教育出版  
松本茂・本多敏幸・野田小枝子ほか (2016) 『One World English Course 2』 教育出版  
松本茂・本多敏幸・野田小枝子ほか (2016) 『One World English Course 3』 教育出版  
本多敏幸・松本茂・金森強ほか (2021) 『One World English Course 1』 教育出版  
本多敏幸・松本茂・金森強ほか (2021) 『One World English Course 2』 教育出版  
本多敏幸・松本茂・金森強ほか (2021) 『One World English Course 3』 教育出版